

# New Caledonia

ニューカレドニア・オフィシャル・ガイドブック

## Official Guidebook

ニューカレドニア観光局



## ごあいさつ

“天国に一番近い島”と称されるニューカレドニアのラグーンは、2008年にユネスコ世界自然遺産に登録、2018年には10周年記念を迎えました。これはひとえに、私たちニューカレドニアの島民一人一人が、宝であるこの貴重な自然環境に敬意を払い、慈しんできた証と自負しています。

世界最大面積のラグーンばかりでなく、この島にしか棲息していない3000種以上の植物や、1500種以上の生物を有する固有種の宝庫であるニューカレドニアは、今なお手付かずの自然が守られている、地球上でもっとも希少なエリアの一つと言っても過言ではありません。私たちは、皆さまにもぜひ、この島の素晴らしい自然に触れていただきたいと考えています。

そしてこれらの自然が創り出す、ニューカレドニアの多様性に満ちた景観にもご注目ください。この島では、あたかも世界各国を歩き回ったような多彩な出会いが待っています。グランドテール島南部の乾いた赤い大地、西海岸の黄金色に輝く平原、カナック部族(地元のメラネシア系民族)が暮らす東海岸の緑に覆われた山々、そしてターコイズブルーのラグーンに囲まれた宝石のような島々……。海から山、森まで、その景観の見事なコントラストは、訪れる者の目を奪い、深い感動とともに旅をひときわ忘れがたいものにしてくれるはずです。

さらに特筆すべきは、この島で体感できるニューカレドニアならではのミックス・カルチャー。首都ヌメアではフランス領ならではのフレンチシックな趣を満喫し、本島の他エリアや離島では古来の風習を今なお色濃く受け継ぐカナックたちの文化に触れる一。

自然から絶景、カルチャーまで、数多の魅力あふれるニューカレドニアで、あなたも自分ならではの“天国”を探してみたいかかでしょうか？

ボン・ヴォワヤージュ！ よい旅を！

La Nouvelle-Calédonie, connue sous le nom de "l'île la plus proche au paradis", a célébré les 10 ans de l'inscription de ses lagons au patrimoine mondial de l'UNESCO en 2018.

C'est la preuve tangible de l'attachement de tout un peuple à la préservation de son environnement naturel et humain : son plus précieux trésor !

Cet anniversaire est l'occasion de mettre en valeur le plus grand lagon du monde mais également sa biodiversité exceptionnelle, l'une des plus protégées de la planète, dont plus de 3000 espèces végétales et 1500 espèces animales endémiques.

En Nouvelle-Calédonie, la diversité des cultures et des paysages sont telle que le visiteur a l'impression d' avoir visité plusieurs pays en un. Désert de terre rouge dans le Grand Sud, plaines dorées des broussards de la Côte Ouest, vallées verdoyantes des tribus Kanak de la Côte Est, lagon turquoise qui sublime le littoral de toutes les îles... Les contrastes sautent aux yeux et garantissent un voyage inoubliable, fort en émotion.

De la nature aux paysages majestueux ainsi qu'à la diversité culturelle, pourquoi ne pas tenter de trouver votre propre "paradis" au sein des multiples charmes de la Nouvelle-Calédonie?

Bon voyage!

ニューカレドニア観光局 **Nouvelle-Calédonie Tourisme**  
局長 **Directeur Général**



**Jean-Marc MOCELLIN**  
ジャン＝マルク・モスラン



# New Caledonia Map

ニューカレドニアマップ



## Côte Ouest 西海岸 ---P24

牧歌的な町々と

多彩な見どころが点在

ハート形のマンングローブ、巨大なシダが生い茂る太古の森、世界遺産のラグーンを満喫できるラグジュアリーリゾートなどの見どころは必見。牧歌的な町が点在し、開拓時代の面影も感じられるエリアです。



## Nouméa ヌメア ---P6

ニューカレドニア観光の

一大拠点

南太平洋の楽園を遊びつくすための拠点となる首都・ヌメア。ホテルやレストラン、ショッピングにぴったりのプロムナード、博物館など多彩なスポットが集結しています。

## Côte Est 東海岸 -- -- P30

奇岩群をはじめとした  
ディープな魅力が満載

思わず目を奪われる巨大な奇岩群など、変化に富んだニューカレドニアの魅力を感じることができます。一部エリアは「北東部沿岸地域」として世界遺産にも。先住民の人々の素朴な暮らしもかま見ることができます。



© Valentin Coutaz

## Ouvéa ウベア島 -- -- P18

果てしなく続く白砂のビーチは  
天国へ向かう扉

映画化もされた旅行記『天国にいちばん近い島』の舞台になったのが、ここです。三日月型の細長い島で、約25kmにもおよぶ白砂のビーチラインが見事。島を囲むラグーンは世界遺産に登録されています。



© P. Dancel

## Lifou リーフ島 -- -- P20

ロワイヨテ諸島の中心地には  
屈指の美しさを誇るビーチが

ロワイヨテ諸島最大のこの島には、目にも眩しい白砂のビーチが点在。中でも島内屈指の白さを誇るロンガニ・ビーチは必見です。また、特産品バナラの農園や工場の見学も貴重な体験になるはず。



© NCTPS

## Maré マレ島 -- -- P22

手つかずの自然と昔ながらの  
暮らしが色濃く残る秘島

ロワイヨテ諸島の中でも日本人観光客が少なく、昔ながらののどかさが色濃く残る島ですが、島内には3つ星ホテルもあり快適な滞在が楽しめます。巨大な洞穴や絶景の断崖など、変化に富んだ自然景観が魅力。



© Nana Mitsui

## Île des Pins イル・デ・パン -- -- P14

世界遺産のラグーンに浮かぶ  
「海の宝石箱」

ヌメアから飛行機で約25分。カナック（メラネシア系先住民）が「海の宝石箱（クニエ）」と称賛する島です。周囲のラグーンは世界遺産であり、島の随所にもその名の通りの美景が広がっています。



© Stéphane Ducandas

## Grand Sud グランズド(本島南部) -- -- P28

赤い大地におおわれた  
原生動植物の宝庫

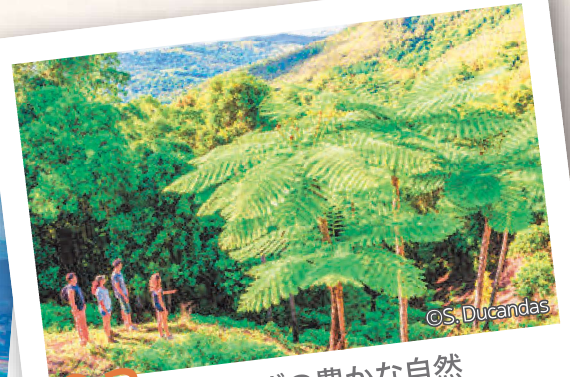
鉱物資源を豊富に含んだ赤い大地は、3,200種以上というニューカレドニアの固有植物を育てています。リビエール・ブルー州立公園をはじめとする原生の森や大地で、まだ知らぬ大自然の神秘に触れてみて。



# ニューカレドニアに行くべき **7つ** の理由

「天国に一番近い島」と称される、南太平洋の楽園・ニューカレドニア。南仏の港町を思わせる趣にあふれたこの美しいビーチリゾートは、まだまだ知られざる魅力に包まれた旅のデスティネーションです。

© Piergiorgio Pirrone



© S. Ducandas

## **02** 手つかずの豊かな自然

ニューカレドニアに生息する固有動植物は、約3200種にもものぼります。これら固有種を数多く育む赤い大地や、巨大なシダが生い茂るジュラシックな森、マングローブの密林など、ニューカレドニアは原生の自然が身近に息づいている島です。この豊かな山や森をトレッキングやサイクリングなどで、気軽にお楽しみください。

## 世界遺産の美しいラグーン **01**

2008年、ユネスコ世界自然遺産に登録されたニューカレドニアのラグーン（礁湖／サンゴ礁における地形の一つ）。ジュゴンやウミガメといった絶滅危惧種をはじめ、約1万5000種もの海洋生物たちが生息する“天国”です。シュノーケリングやダイビングなどで、このラグーンの美しさをご体験ください。

© Monique CECCATO

## 心穏やかに過ごせる、癒しの島 **03**

年間平均気温24℃前後で気温差も激しくなく、通年、快適な気候が続くニューカレドニア。治安や衛生面でも不安が少なく、また親日の人々が温かい笑顔で迎えてくれるこの島では、心穏やかに癒しの時間を過ごしていただけます。

## 南フランスの港町のような趣 04

ニューカレドニアの首都ヌメアは、まるで南仏の港町のような雰囲気にあふれる場所。白い帆船が輝くハーバーやコロニアル様式の建物群、おしゃれなカフェやブティックなど、SNS 映えも抜群の洗練されたスポットも数多くあります。



## 一流フレンチからエスニックまで 美味満載

天使のエビやロブスターなどの新鮮な魚介類、鹿肉や牛肉、トロピカルフルーツまで、ニューカレドニアには上質な食材がいっぱい。レストランも一流フレンチからエスニックまで多彩で、フランス領ならではのこだわりの技で調理された絶品グルメがいつでも堪能できます。

# 05



## 06 ウエディング&ハネムーンから 女子旅・家族旅行まで、 旅のスタイルも多彩

ニューカレドニアは、さまざまな旅のスタイルで楽しめるデスティネーション。ウエディングやハネムーンなどのロマンチックな旅はもちろん、女子旅やおひとりさま旅、アクティビティをたっぷり満喫したい家族旅行や卒業旅行まで、どんな旅にもぴったりです。



## 07 直行便で約8時間半・ 時差2時間で快適

ニューカレドニアへは直行便で約8時間半。実はこの島は、「日本に一番近いフランス」でもあるのです。また、時差も日本とたった2時間なので、体に負担が少なく、快適な旅が楽しめます。

# Nouméa ヌメア

ニューカレドニア観光の滞在拠点となるのは、グランドテール島南部にある首都ヌメア。ショップやレストラン、博物館など多彩なスポット満載のヌメアを楽しみつくしてみませんか？



## 1 早起きして ブーランジュリーへ

本国フランスと同様、ヌメアにはたくさんのブーランジュリー（パン屋）があります。バゲットやクロワッサンなどを朝イチでゲットして、ホテルの客室テラスで海を眺めながら味わう朝食も素敵です。おすすめのショップはアンスバタにある「L'Atelier Gourmand」（地図 P13 アンスバタ）。



## 5 ビーチサイドヨガで癒しの時間

ヌメアにて、日本人インストラクターによるビーチサイドヨガ・レッスンをしているのが「Paradise Yoga New Caledonia」。青く輝く海を眺めながら、心癒される時間をどうぞ。

Paradise Yoga New Caledonia

WEB <https://paradise-yoga-nc.amebaownd.com>



## 2 マルシェでお買い物

モーゼル湾にある朝市（マルシェ）は地元の人々が日常的に利用している“庶民の台所”。雑貨やハンドメイド・アクセサリーのお店などもあり、お土産探しに最適です。キッチン付きホテルに滞在しているなら、新鮮な魚介類や野菜を買って料理を楽しんでみてはいかがでしょうか？



## 6 奥深いフレンチ・ ワインの世界を堪能

フレンチ・レストラン「Chai de l'Hippodrome」（地図 P13 アンスバタ）では、ソムリエによる解説を聞きながらワインを味わう、テイस्टینگ講習を受けることができます。



## 7 サンセットクルーズで 夕景観賞

ヌメアでは主なビーチが西向きになっているため、サンセットタイムの美しさはひとさわ。せっかくならカタマランヨットのクルーズで、シャンパンを傾けながらロマンチックに楽しんでみませんか？



© Arnaud Elissalde - Terres de Lumière

### 3 ココティエ広場周辺で町歩き

ココティエ広場はヌメアの中心地。周辺にはブティックや雑貨店、チョコレートショップなど数々のお店が立ち並び、観光と合わせての町歩きにぴったり。歩き疲れたら、おしゃれなカフェでひと休みして！



© Terres de Lumière

### 4 絶景レストランでオーシャンビューランチ

水上レストラン「Le Roof」(地図P13 アンスパタ)やガレット専門店「Crêperie Le Rocher」(地図P13 アンスパタ)で、絶品グルメとともに素晴らしい景色も味わって。



© Show Takano



© Terres de Lumière

### 8 博物館や水族館でニューカレドニアについて知る

ヌメアは、数々の博物館や水族館がある南太平洋屈指の文化都市。雨の日には、こうしたミュージアムをめぐってニューカレドニアの歴史や伝統文化、海洋生物たちの世界に触れるのも楽しいものです(詳細P8-9参照)。

ヌメアでやりたい

10のこと



### 9 透明度バツグンの海で体験ダイビング

絶好のダイビングスポットがひしめくニューカレドニア。ダイビング未経験者でも体験ダイビングに参加すれば、この素晴らしい海中の絶景を思う存分、堪能することができます。ダイビングショップ「ALIZE」(地図P13 アンスパタ)では、日本人インストラクターがご案内するので安心です。



© Darren Jew



© hôtel LE LAGON

### 10 ラグジュアリースパで極上気分

ル・メリディアン・ヌメア・リゾート&スパにある「ディーブ・ネイチャー・スパ」(地図P13 アンスパタ)やシャトーロワイヤル・ビーチリゾート&スパにある「アクアロワイヤル・スパ」(地図P13 アンスパタ)は、アクティビティを満喫した後のリラックスタイムにぴったり。どこも人気なのでお早めにご予約を。

## こちらどうぞ！その他のヌメア観光スポット



### ニューカレドニア・ラグーン水族館 L'Aquarium des Lagons Nouvelle-Calédonie

ニューカレドニアの豊かな海を再現展示。世界ではじめて展示に成功した「光るサンゴ」や、生きた化石と呼ばれる固有種「オオベソオウムガイ」など、希少な海洋生物について、じっくり鑑賞しながら学べます。

WEB [www.aquarium.nc](http://www.aquarium.nc)



### ニューカレドニア博物館 Le Musée de Nouvelle-Calédonie

メラネシアの伝統文化や芸術、歴史について知りたいなら、まずはここへ。伝統家屋カーズや昔ながらの帆船ピログなどの実物展示があり、見応え十分です。※ 2019年7月から改装のため約2年間休館中。

WEB [www.museenouvellecaledonie.nc](http://www.museenouvellecaledonie.nc)



### ヌメア市立博物館 Le Musée de la Ville de Nouméa

ココティエ広場に隣接するコロニアル建築の博物館。元は銀行として建てられ、その後、市庁舎や観光局として使われていたことも。ヌメアの町の歴史について、詳しく知ることのできる場所です。

WEB [www.noumea.nc/musees](http://www.noumea.nc/musees)



### ニューカレドニア海洋博物館 Le Musée Maritime de Nouvelle-Calédonie

南太平洋に浮かぶニューカレドニアの海洋国としての歴史について紹介している博物館。フランの海軍士官ラ・ベルーズによる遠征や、ニッケル鉱石をはじめとする海上貿易などにまつわる数々の展示は見応え十分です。

WEB [museemaritime.nc](http://museemaritime.nc)



### ミシェル・コルバソン動植物公園 Le Parc Zoologique et Forestier Michel Corbasson

ヌメア市内から車で15分ほど。カゲーやウベアインコ、ノトゥーなどの希少な固有鳥類や、南国ならではのカラフルな花々を見ることができます。案内板に日本語表記があるのでわかりやすく、ガイドツアー（英語・仏語）も人気です。

WEB [www.province-sud.nc/page-votre-province/parc-zoologique-forestier](http://www.province-sud.nc/page-votre-province/parc-zoologique-forestier)



### サン・ジョゼフ大聖堂 La Cathédrale Saint-Joseph

1897年に完成したカトリック教会で、ヌメアのランドマーク的存在。内部では、パイプオルガンやニッケルで作られたシャンデリアなどが見られます。30点にも及ぶ美しいステンドグラスも見逃せません。

WEB [www.newcaledonia.travel/ja/noumea/saint-josephs-cathedral](http://www.newcaledonia.travel/ja/noumea/saint-josephs-cathedral)





©M. Dosdane

### チバウ文化センター Le Centre Culturel Tjibaou

アンスパタから車で約20分。カナックの伝統文化の紹介や交流を目的とした複合施設で、敷地内には博物館や劇場、図書館、植物園などがあります。著名な建築家、レンゾ・ピアノ氏の手による斬新な建築デザインが印象的です。

WEB [www.adck.nc](http://www.adck.nc)



©Terres de Lumière



©Terres de Lumière



©Terres de Lumière

### ヌメアの観光案内所

以前までココティエ広場の中にあった観光案内所が、2017年5月からフェリーターミナル内へ移動しています。また、アンスパタ地区の観光案内所もタクシーボート「ブラージュ・ロワジュール」の乗り場横に移動しました。ヌメアの町案内図やバス路線図だけでなく、離島やグランドテール北部、南部などへのツアー情報やマップが豊富に揃っています。日本語のパフレットも用意されていますので、ぜひご利用ください。  
【営業時間】8:00～17:30（土曜9:00～12:00）／日曜・祝日休



©CDCI

ご存知ですか？

### 魅力いっぱい！

### ニューカレドニアへのフランス語留学

日本に最も近いフランス語圏の地、ニューカレドニア。気候は一年中温暖、治安も安心、さらに何と言っても穏やかで温かな人々が迎えてくれる土地柄は、留学にうってつけです。ヌメアのフランス語は本国の標準語と変わらない発音なので、学習のクオリティーは充分。授業の後や休日に美しいビーチや緑豊かな山でのアクティビティーを楽しむのも、きっといい思い出になるはずですよ。

クレパック WEB [www.creipac.nc](http://www.creipac.nc)

ヴォルテール学院 WEB [www.institutvoltaire.nc](http://www.institutvoltaire.nc)



©CREIPAC



©CREIPAC

## 気軽に行けるヌメア近郊の離島

ヌメアから片道数十分程度で気軽にアクセスできる島々をご紹介します。



### メトル島

ニューカレドニアで唯一、水上コテージを有する「エスカペード・アイランド・リゾート」があるメトル島。モーゼル湾発着のホテル専用シャトルボートで約20分、アンスバタ湾からタクシーボートで約15分というアクセス便利なロケーションにあります。島の周辺は自然保護区に指定されている海域で、ウミガメやマンタ、ジュゴンなどの生き物たちにも出会えるチャンスがいっぱいです。

## L'îlot Maître

### マリナクティビティー三昧の休日にぴったり！

メトル島内には日本人スタッフが常駐する「アクアズール」というマリンスポーツショップがあり、ホテル宿泊者でなくても、ジェットスキーやSUP、シーカヤック、シュノーケリングなどのマリナクティビティーを楽しむことができます。

アクティブに楽しみたい女子旅や卒業旅行、家族旅行にはうってつけの島です。アンスバタ湾～メトル島のポート往復とランチ、カヤックやシュノーケリングなど4種のマリナクティビティーがセットになって1日中遊べる「マリパス」も人気です。



© GLP hotels



© GLP hotels

### Hôtel メトル島のホテル



©GLP Hotels

### エスカペード・アイランド・リゾート L'Escapade îlot Maître

ニューカレドニアで唯一、気軽にリゾートアイランドステイが楽しめる1島1リゾートのホテルです。憧れの水上バンガローは、ロマンチックなハネムーンやブチ贅沢を満喫したい女子旅にぴったり。他にもビーチバンガロー、ガーデンバンガローが用意されています。



©GLP Hotels

WEB [www.glp-hotels.nc/escapade-ilot-maitre.html](http://www.glp-hotels.nc/escapade-ilot-maitre.html)

## アメデ島

高さ56mの白い灯台がランドマークとなっているアメデ島。この灯台は1861年にナポレオン三世の命によって造られたものです。247段の階段を上りきると、目の前に広がるのは息をのむようなパノラマビュー！ヌメアからの日帰りツアー（週5回／火・水・金・土・日曜催行）では、この灯台への入場券やランチ、グラスボトムボートなどがセットになっており、アメデ島の魅力をあますところなく楽しめます。

また、島内にある小さな黄色いポストから出した郵便は、幸せを運ぶとのウワサも。お土産ショップで絵ハガキを買って、大切な家族や友人にここから手紙を出してみたいかがでしょうか？



© M. Dosdane



## L'îlot Amédée



### 日帰りツアーの内容

- 各ホテルから港まで往復バス送迎
- アメデ島まで往復
- ウェルカムカクテル
- トロピカルビュッフェランチとタヒチアンショー
- ランチのドリンク（赤・白・ロゼワイン、ソフトドリンク）
- グラスボート（約30分）
- パレオの着付けショー
- ヤシの木登りショー
- シュノーケリングセット（有料）
- シュノーケルキックボードとスタンドアップパドルの貸出（有料）

Mary D

WEB [amedeeisland.com/japanese](http://amedeeisland.com/japanese)

### ご存知ですか？

#### 気軽に使えるタクシーボート

メトル島とカナル島へは、アンスパタ・ビーチに発着所のあるタクシーボート「プラージュ・ロワジュール (Plages Loisirs)」または、「コリン・エクスカーション (Colleen Excursions)」で移動できます。予約なしで乗船可能で、出発時に帰りの時間を伝えて迎えに来てもらうシステムです。ラニエ島やシグナル島、ゴエラン島へ行くなら、下記のようなタクシーボート会社へ予約しましょう。いずれも朝早くに出発するのがおすすめです。

#### 主なタクシーボート

Plages Loisirs WEB [www.ileauxcanards.nc/activites/navette/](http://www.ileauxcanards.nc/activites/navette/)  
Dal'Océan WEB [www.amedee-taxiboat.com/en-GB/](http://www.amedee-taxiboat.com/en-GB/)  
ATAO TAXIBOAT WEB [ataotaxiboatnc.com/](http://ataotaxiboatnc.com/)  
Coconuts Taxiboat WEB [coconuttaxiboat.com/](http://coconuttaxiboat.com/)



© Toko

## その他、ヌメア近郊の無人島

シグナル島

### シグナル島

Îlot Signal

シグナル島は、ラグーンに囲まれ、アジサシなどの海鳥たちの保護区となっている美しい無人島。ヌメアからボートで約45分の距離にあります。約120種の魚たちやウミガメなどが暮らす海で、シュノーケリングを楽しんでみては？ 島内には、歴史的価値のある建築遺跡も残されています。

ラレニエ島

### ラレニエ島

Île Larégnère

ヌメアからタクシーボートで約40分。静けさにあふれた白砂のビーチが広がる無人島です。周辺海域は海鳥たちを保護するため、自然保護区に指定されており、美しい環境が保たれています。ダイビングスポットとしても人気で、シュノーケリングやダイビングを通じて海中の絶景を楽しめます。

メトル島

### カナール島

Île aux Canards

アンスバタ・ビーチからタクシーボートで約5分。ヌメアから最も近い離島がカナール島です。砂浜には赤いパラソルとビーチデッキが並び、リゾート感たっぷりの雰囲気の中で一日中、のんびりと過ごせます。島内にはレストランもあってとても便利。島のあちこちに飾られたアートも見ものです。

カナール島

ヌメア



ゴエラン島

### ゴエラン島

Îlot Goéland

希少な海鳥たちの保護区となっているゴエラン島は、毎年4月1日～9月30日の間だけ入島が許されている島です。シュノーケリングで美しいラグーンを楽しむほか、カイトサーフィンにもうってつけのスポットとして知られています。



# ヌメアMAP



- ① ホテル・ポーリヴァージュ
- ② カサ・デル・ソル
- ③ ル・ラゴン
- ④ ヒルトン・ヌメア・ラ・プロムナード・レジデンス
- ⑤ ラマダ・ホテル&スイーツ・ヌメア
- ⑥ ヌバタ
- ⑦ シャトーロワイヤル・ビーチリゾート&スパ
- ⑧ ル・メリディアン・ヌメア・リゾート&スパ
- ⑨ エスカペード・アイランド・リゾート



⑨ メトル島  
L'îlot Maître



詳しいホテルの情報は… P38・39

# Île des Pins イル・デ・パン

イル・デ・パンとロワイヨテ諸島

世界遺産のラグーンに囲まれた宝石箱のような島、イル・デ・パン。  
まさに南の楽園と呼ぶにふさわしい美しさを誇り、  
ヌメアから日帰りでも楽しめるディステーションとして人気です。  
もちろん数日滞在して、のんびりと優雅なリゾートライフを満喫するのもおすすめ。



## ピッシンヌ・ナチュレル La Piscine Naturelle d'Oro

島の東、オロ湾にあり、サンゴの隆起によって海水がせきとめられて出来た天然のプール。波が立たず海水の透明度も高いため、色とりどりの魚たちが見られる絶好のシュノーケリングスポットになっています。また、南洋杉に囲まれたこの美景はイル・デ・パンのシンボルにも。

© @mil\_moonstagram



### ✈️ アクセス

ヌメアのマジェンタ空港から国内線飛行機で約25分。1日3～5便運航。始発～最終便の利用でヌメアからの日帰り観光も可能。ヌメアからフェリーも週2～3便運航しているが変更が多いため、短期滞在者には不向き。

▶ 国内線飛行機・フェリーの情報はP33参照

公共交通がなくタクシーもつかまらないため、空港送迎や島内移動には宿泊ホテルの送迎サービスを利用して（有料・要予約）。台数は少ないもののレンタカーも利用可能。観光にはガイド付き島内一周ツアーなどへの参加もおすすめ。

【主なレンタカー会社】

Edmond Location [WEB www.edmond-transport.com](http://www.edmond-transport.com)

※その他、台数は少ないがホテルでも借りられる。



© Ethnotrack

### 🌴 クト・ビーチ La plage de Kuto

真っ白のパウダーサンドが一面に広がるビーチで、その砂のきめ細さは島内随一です。大型客船の寄港地にもなっているため、客船が着いた日は人で賑わいますが、日頃は人も少なく静か。サンセットタイムもロマンチックです。



© Ethnotrack

### 📷 カヌメラ・ビーチ La plage de Kanuméra

クト半島を挟んで、クト・ビーチとは対岸に位置する入江。緑生い茂る小島が浮かび、クト・ビーチとはまた趣の異なる景色が楽しめます（小島は個人所有地で立ち入り禁止）。シュノーケリングスポットとして人気です。



© Ethnotrack

### 🏡 バオ村 Le Village de Vao

イル・デ・パンの島民生活の中心地となっている村で、学校や市役所、郵便局、診療所などがあります。週2回、水・土曜の朝6時～11時には朝市が開かれており、お土産探しや地元グルメを味わうのに最適。ステンドグラスが美しいカトリックの教会「ノートルダム・ド・アソンプション教会」も見どころです。これは、1860年に創建された教会で、その一部は徒刑囚によって造られました。その後、信者が増えたことから増築され、今に至っています。（見学は祭事がおこなわれていない時のみ可能）。



© Ethnotrack

### 🗿 サン・モーリス記念碑 La statue de St-Maurice

イル・デ・パンにはじめてカトリック宣教師が上陸したと言われる場所に立つ記念碑。記念碑の周囲にはメラネシアの神像の木彫りが立ち並び、独特の光景を形づくっています。



© Ethnotrack

### 👑 オルタンス女王の洞窟 La Grotte d'Oumagne

19世紀後半にこの地域一帯を治めたオルタンス女王が、継承問題に端を発する種族間の争いを避けるため身を潜めていたと伝わる洞窟。周辺にはシダが生い茂り、伝説にふさわしい神秘的な雰囲気を醸し出しています。



© Ethnotrack

### 🏰 パリ・コミューンの流刑地跡 Les Vestiges du bagne

19世紀後半～20世紀初頭まで、フランスの政治犯を送り込む流刑地となっていたイル・デ・パン。島の南西には、当時の流刑地跡が今も残っています。美しい楽園のイメージとは異なる、島の歴史に触れられる場所です。

# Hôtel イル・デ・パンのホテル



## ル・メリディアン・イル・デ・パン Le Méridien Ile des Pins

オロ湾を一望する5つ星のラグジュアリーリゾート。海へとつながるかのようなインフィニティープールでくつろいだり、徒歩約15分のピッシヌ・ナチュレルでシュノーケリングを楽しんだり、南国リゾートの醍醐味を存分に味わえます。

WEB [www.lemeridieniledespins.com](http://www.lemeridieniledespins.com)



## ウレ・ロッジ・ビーチ・リゾート Ouré Lodge

カヌメラ湾沿いに建つ4つ星リゾートホテル。緑茂る広々としたガーデンに独立したバンガロータイプの客室が点在し、リゾート気分を盛り上げてくれます。ホテル内でピッシヌ・ナチュレルへの送迎やピローグツアーなどの手配が可能です(有料)。

WEB [www.ourelodge.nc](http://www.ourelodge.nc)



## ホテル・クブニー Hôtel Kou-Bugny

道をはさんで目の前がクト・ビーチという絶好のロケーション。メラネシアの伝統的家屋カーズを模したバンガロータイプと、2階建てのビルディングタイプの客室があります。クト・ビーチにレストラン&バーもあり、絶景が眺められるスポットとして人気。

WEB [www.kou-bugny.com](http://www.kou-bugny.com)



## ホテル・コジュー Hôtel Kodjeu

ワメオ湾沿いに建ち、島内唯一のダイビングセンター「クニエ・スクーバ・センター」が併設されていることから、ダイバーたちに人気の高いホテル。バンガロースタイルの客室には、スタンダードタイプの他、キッチン付きのものも。

WEB [www.hotel-iledespins.com](http://www.hotel-iledespins.com)



ご存知ですか？

### 絶対に食べておきたい！イル・デ・パンのエスカルゴ

一般的な丸い形ではなく、大きな円錐形をしているイル・デ・パン産のエスカルゴ。プリットした食感とクセのない淡白な味わいが絶品です。しかし、この島の貴重な固有種であるため、島からの持ち出しが禁止されており、島内でしか食べることができません。イル・デ・パンを訪れたら、ぜひご賞味あれ！





# イル・デ・パン MAP



© CDCI

## メラネシアの伝統船に乗ってクルージング！ ピローグツアーも楽しい

ピローグとは、メラネシアの伝統的な帆掛け船のこと。このピローグに乗ってクルージングを楽しんでみませんか？バオ村のサン・ジョゼフ湾から出発し、奇岩の浮かぶウビ湾をめぐり、オロ半島へむかう船旅で、2時間のクルージングのみの半日コースと、ピローグでのクルージングに加えてオロ半島の散策とピッシンヌ・ナチュレルが楽しめる1日コースがあります。



© Ethnotrack



© Terres delumiere

## -----【 ピッシンヌ・ナチュレルへは川を歩き、森を抜けて 】-----

イル・デ・パンのイチ押しスポット「ピッシンヌ・ナチュレル」は、たどり着くまでの道のりも楽しい体験になるはず。

「ル・メリディアン・イル・デ・パン」からのルートと、対岸の入口からのルートがありますが、いずれも川を遡るように歩き、さらに森の小径を抜けて行きます。途中、数カ所に看板が出ているので、それに沿って進みましょう。うっそうと繁るジャングルの先に輝く「ピッシンヌ・ナチュレル」を見つけたときの感動はひとときわです。足元が悪い箇所も多いので足元はビーチサンダルよりもマリンシューズ、川の水位が高い時間もあるため短パンなどで向かいましょう。

※ 「ル・メリディアン・イル・デ・パン」宿泊者以外は、入場料 200CFP がかります。



# Ouvéa ウベア島

イル・デ・パンとロワイヨテ諸島

島を取り囲むラグーンが世界遺産に登録されているウベア島は、映画化もされた旅行記『天国にいちばん近い島』の舞台。

どこまでも果てしなく続く白い砂浜は静けさに満ちており、あたかも時間が止まったかのよう。“神様に愛された”と言うにふさわしい美しい自然に触れ、非日常を体感してみませんか？



## ムリ・ビーチ La plage de Mouli

島の南西に位置するムリ・ビーチのパウダーサンドは、そのきめ細やかさからニューカレドニア随一とも言われます。遠浅の真っ青な海が広がり、何もない贅沢な休日をご過ごすにはもってこいの場所。ビーチ東端のムリ橋も絶景スポットとして人気です。



## レキンの断崖 Les Falaises de Lékin

ウベア島の中心地・ファヤウェ村から南西約6kmにある絶景スポット。サンゴ礁が隆起してできた絶壁は、白砂のビーチが広がるウベアの中でひとときの異彩を放ちます。周囲は美しい海ですが神聖な場所であるため、ここでの海への立ち入りは禁止。



ご存知ですか？

### サメを祀る土着信仰

その昔、この地には、サメを最も神聖な存在として崇める宗教がありました。ウベアでは今もサメは非常に身近かつ大切な生き物。サメにまつわるツアーもいくつかあり、南部では「南ブレイヤード無人島ツアー」に参加すると、帰りにサメの餌付け場に寄ることも。また、北部の海岸沿いをハイキングし、サメの産卵所を見に行く「ニメック散策ツアー」では、サメの産卵時期にあたる11月～1月に産卵をしに来るサメを間近に見られることもあります。ちなみに同じ信仰でも北部のほうがより厳しく、餌付けは禁じられているのだとか。そんな文化をふまえて参加すれば、より一層、奥深い旅が楽しめます（ツアーはフランス語対応のみ）。



▶ **アクセス**  
 ニュメアのマジエンタ空港から国内線飛行機で約35分。1日3～4便運航。始発便～最終便の利用でニュメアからの日帰り観光も可能。  
 ▶ 国内線飛行機の情報は P33 参照

空港から宿泊ホテルまでは、ホテルの送迎サービス（要予約）の利用を。タクシーは台数がなくほぼ利用できないため、各観光スポットへはレンタカーまたはホテル主催のツアー参加で。

【主なレンタカー会社】  
 L.O.K. Ouvéa **E-mail** ouvealok@gmail.com  
 Pouiono Location **E-mail** pouionolocation@outlook.fr



**神秘的な洞穴**  
 Le Trou bleu d'Hanawa & Le Trou aux tortues

手つかずの自然が残るウベアには、陽光の具合でその色合いを変える神秘的な洞穴があります。「アナワ洞穴（青の洞穴）」は水深が今もはっきりと分からないほど深い、不思議な洞穴。「カメの洞穴」では、ここに棲みついているウミガメを見ることが出来ます。



**ムリの教会**  
 L' Eglise de Mouli

まるで絵本の中に出てくるかのような、赤いとんがり屋根のかわいらしい教会。映画『天国にいちばん近い島』の中にも登場します。今なお、島民たちの信仰の場として使われている場所です。



**ウベア石けん工場**  
 La savonnerie d'Ouvéa

ウベア島の特産品といえばココナッツ。ここでは食用などに使ったココナッツの外皮からオイルを抽出し、石けんを作っています。エコに適った仕組みを知れば島の暮らしが少し見えてくるかも。作られた製品は、お土産にも人気です。

**Hôtel ウベア島のホテル**



**パラディ・ド・ウベア**  
 Paradis d'Ouvéa

ムリ・ビーチの絶景が目の前に広がる、ロケーション抜群の4つ星ホテル。バンガロータイプの客室は5タイプに分かれ、中にはプライベートスパの付いたラグジュアリールームも。

**WEB** [www.paradisouvea.com](http://www.paradisouvea.com)



**ル・ボープレ**  
 Le Beaupré

かつて映画『天国にいちばん近い島』の撮影も行われたという、島内きっての老舗ホテル。2015年に全館改装を行い、より一層快適な宿へと生まれ変わりました。

**WEB** [www.hotelbeaupre.nc](http://www.hotelbeaupre.nc)



ウベア名産のヤシガニや  
 マングローブガニは絶品!



# Lifou リーフ島

イル・デ・パンとロワイヨテ諸島

ロワイヨテ諸島の州都・ウエがあり、諸島の政治・経済の中心となっているリーフ島。観光スポットは島の北部や東海岸に点在しています。特産品のバニラは非常に品質が高く、お土産におすすめ。



©DenisCallé / DIL



© P. Dancel



© Giovannah / DIL

## ロンガニ・ビーチ La plage de Luengöni

ターコイズブルーに輝く海と真っ白なパウダーサンドの美しさでは、リーフ島随一。ニューカレドニア内でも屈指のビーチです。ひっそりとした静けさにあふれており、プライベート感も満載。

## ジネク湾 La baie de Jinek

島内屈指のシュノーケリング・ポイントとして人気のスポット。海中遊歩道が2コース用意されており、それぞれ色分けされたブイをたどって一周することができます。

## ドキンの断崖 Les Falaises de Jokin

島の北端にある景勝地で、透明度の高い澄み切った海と険しい断崖のコントラストが素晴らしい。波がおだやかであればシュノーケリングにも最適な場所です。7～9月には、運が良ければクジラが見られるかも。

## ナサ口酋長の大カーズ La grande case de Hnathalo

カーズとはカナックの伝統的家屋のこと。ここでは、ニューカレドニアでも最大のカーズで、現在も村人たちの集会所として使われています。近くに建つ教会も島の見どころ。



© Sebastien Lebeque



© Eric Aubry



### → アクセス

ヌメアのマゼンタ空港から国内線飛行機で約35分。1日4～6便運航。始発便～最終便の利用でヌメアからの日帰り観光も可能。ヌメアから週1便、フェリーも出ているが時間がかかるため、短期滞在者には不向き。  
▶ 国内線飛行機・フェリーの情報はP33参照

空港からウエまでは一応、公共バスがあるが本数はごくわずか。タクシーもないので宿泊ホテルの送迎サービスを利用して(要予約・有料)。観光スポットをめぐるにはレンタカーまたはホテル主催のツアーに参加。

#### 【主なレンタカー会社】

Loca V [E-mail locav@lagoon.nc](mailto:locav@lagoon.nc)

Auto Pro Locations [E-mail autoprolocations@mls.nc](mailto:autoprolocations@mls.nc)



© Terres de lumière

## メゾン・ドゥ・ラ・ヴァニユー

La Maison de la Vanille

リフー島の北東部にあるバニラ工場。ロワイヨテ諸島で栽培・収穫されたバニラはすべてここへ集められ、丹念な熟成を経たうえで商品化されます。工場見学後は、ショップで上質なバニラを購入することも。



### ご存知ですか？



© Eric Aubry



### リフー島特産の高品質バニラ

イギリスの宣教師によって、リフー島にバニラが持ち込まれたのが1860年。以来、この島ではバニラ栽培が盛んになっていきました。花の受粉は一つ一つ、人の手で行うなど、ここでは昔ながらの栽培法が今も真摯に守られています。こうして手をかけて育てているバニラが市場に出回るまでに要する時間は、なんと約5年半。大量生産には不向きなため、日本に輸入されることはほとんどありません。ぜひニューカレドニアで、その馥郁たる香りにひたってみてください。

## Hôtel リフー島のホテル



© @naturallymaha

### ドレウ・ヴィラージュ

Drehu Village

島内指折りの美しさを誇るシャトー・ブリアン湾に面したホテルで、客室のバンガローはすべてオーシャンビュー。海を眺めながら食事を楽しめるレストランも人気。

[WEB www.hoteldrehuvillage.nc](http://www.hoteldrehuvillage.nc)

### オアシス・ド・キアム

Oasis de Kiamu

オープンエアのレストラン、緑豊かなガーデンに点在する客室バンガロー。トロピカルリゾートの雰囲気に満ちあふれたこのホテルは、ローカルにも人気です。

[WEB www.hoteloasisdekiamu.nc](http://www.hoteloasisdekiamu.nc)



© DenisCallé/ DIL

# Maré マレ島

イル・デ・パンとロワイヨテ諸島

ビーチだけではないニューカレドニアの魅力が、この島にはぎゅっと詰まっています。  
緑あふれるジャングルで冒険家気分を味わい、  
新鮮な果物や野菜が集まる朝市で島の人々の暮らしに触れる…。  
そんな旅を、ぜひ楽しんで！



戦士の跳躍  
Le Saut du Guerrier

一人の戦士が約5mにもなるこの岩の裂け目を飛び越え、敵から逃れたという伝説の残る場所。ダイナミックな岩壁と青々とした海に、自然の荘厳ささえ感じられる絶景ポイントです。



ボンヌの穴  
Le Trou de Bone

熱帯ジャングルの中にぽっかりと口を開けた、直径約20m、水深約40mの洞穴。周囲には長い気根を垂らしたパニアンツリーが生え、神秘的な雰囲気を醸し出しています。



天然水族館  
L' Aquarium naturel

島の西南、タディン湾沿いの森の中にひっそりとある、自然がつくり出したプール。遊泳は禁止ですが、エメラルドグリーンの中には色とりどりの魚が泳ぎ、あたかも天然の水族館のよう。



✈️ **アクセス**  
ヌメアのマジエンタ空港から国内線飛行機で約35分。1日3～4便運航。始発便～最終便の利用でヌメアからの日帰り観光も可能。ヌメアから週2便、フェリーも出ているが約4時間かかるので、短期滞在者には不向き。  
▶ 国内線飛行機・フェリーの情報はP33参照

島内には公共交通やタクシーがないため、宿泊ホテルの送迎サービスを利用して（要予約・有料）。観光スポットをめぐるにはレンタカーまたはホテル主催のツアーに参加を。

【主なレンタカー会社】

Maya Location **E-mail** mayaia@canl.nc

SARL Harper Location **E-mail** harperl@hotmail.fr

## Hôtel マレ島のホテル



### ネンゴネ・ヴィラージュ Nengone Village

シュノーケリング・スポットでもあるビーチ沿いに建つ3つ星ホテル。伝統的な家屋を模したバンガロータイプで、広く快適な造り。レストランの料理が美味しいことでも有名です。

**WEB** [www.hotelnengonevillage.nc](http://www.hotelnengonevillage.nc)



© Ayako KOZONO



© Pauline Massé

— ご存知ですか? —

### マレ島名物「アボカド祭り」

ロワイヨテ諸島の中でもひととき緑豊かなマレ島では、肥沃な大地を活かした農業が盛んです。多彩な野菜や果物が収穫されますが、特に名産とされているのがアボカド。毎年5月には「アボカド祭り」が開催され、収穫を祝っています。アボカド以外にもバナナやヤムイモ、パイナップルなどオーガニックな農産物が売られ、音楽やダンスなどのイベントも開催。島をあげてのお祭りとなります。



© Ayako KOZONO

### 朝市 Le Marché

農業の盛んなマレ島では、新鮮な農作物の集う朝市が見逃せません。島の中心地・タディヌヌの朝市は火・金曜の朝6時～10時に開かれています。焼きたてパンやお菓子、ハンドメイドのアクセサリーなどもあり、お土産探しにもってこいです。



© Ayako KOZONO

### イエジェレ・ビーチ&ワバオ・ビーチ Les plages de Yedjele et Wabao

マレ島きっての美しいビーチといえば、島の西南、ワバオ湾に広がるこの2つ。遠浅の真っ青な海とホワイトサンドのコントラストが見事です。クルーズ船が着くと地元の屋台も出てにぎやかに。

# Côte Ouest 西海岸

ヌメアから少し足を延ばすだけで、ビーチリゾートの賑わいとはまたひと味違う魅力を感じられる西海岸エリア。豊かな自然と人々の暮らしに触れるショートトリップをどうぞ！



## ラグーンを望む絶景ハイキング

ブルーアイユ・デヴァ地区の5つ星リゾート「シェラトン・ニューカレドニア・デヴァ・スパ&ゴルフリゾート」のすぐ近くには、自然保護区に指定された丘陵地帯があり、絶好のハイキングスポットとなっています。1時間～3時間程度で楽しめるハイキングコースが複数、整備されているので、体力やスケジュールに合わせて出かけましょう。一帯は灌木地で見晴らしがよく、ビューポイントからは世界遺産のラグーンを望むこともできます。ハイキングコースマップは、「シェラトン・ニューカレドニア・デヴァ・スパ&ゴルフリゾート」のフロントで入手可能です。

## Bourail ブルーアイユ

### サンセット・アペリティフ

グランドテール島西海岸に位置するブルーアイユでは、サンセットタイムも見逃せません。車で丘陵地の頂上に上がり、ワインや軽食を楽しみながらサンセットを満喫するロマンチックなツアーも催行されています。

GECKO EVASION

WEB [www.geckoevasion.nc](http://www.geckoevasion.nc)



ヌメアからのショートトリップ先として、今、最も注目されている町。世界遺産のラグーンと自然保護区に指定された山や森の両方を、さまざまなアクティビティで満喫できるエリアです。

## Hôtel ブーライユのホテル

### シェラトン・ニューカレドニア・デヴァ・スパ&ゴルフリゾート

Sheraton New Caledonia Deva Spa & Golf Resort

敷地の目の前に世界遺産のラグーンが広がる、5つ星リゾート。敷地自体も自然保護区であり、建物は周囲の自然環境と調和するよう配慮されています。グラスボトムボートや乗馬など各種アクティビティは、このホテルのフロントで予約可能。その他、SUP やシーカヤックなどの無料レンタルも行っています。遊び疲れたら、ラグジュアリースパでのトリートメントがおすすめ。

WEB [www.sheratonnewcaledoniadeva.com](http://www.sheratonnewcaledoniadeva.com)





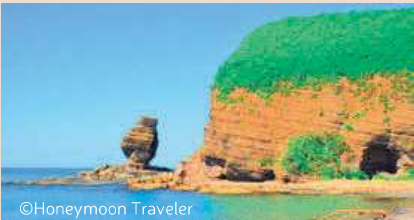


©S. Ducandas

## グラスボトムボート Le Bateau à fond de verre

船底がガラス張りのグラスボトムボートで、世界遺産のラグーンの中絶景を満喫できる約1時間半のツアーです。色とりどりの美しいサンゴや魚たちはもちろん、ウミガメとの遭遇も高確率。予約は「シェラトン・ニューカレドニア・デヴァ・スパ&ゴルフリゾート」フロントにて。

WEB [www.bateau-a-fond-de-verre.com](http://www.bateau-a-fond-de-verre.com)



©Honeymoon Traveler

## ラ・ロッシュ・ペルセ&タートルベイ La Roche Percée et La Baie des tortues

波に侵食され、ダルマのような形になった奇岩、ラ・ロッシュ・ペルセ。そこから続くタートルベイは、稀少なウミガメの産卵地になっています。毎年12月～2月末までの間、自然環境の大切さと保護を考える機会として、ニューカレドニア・ラグーン水族館がウミガメの産卵や孵化の見学ツアーを開催しています。



© M. Dosdane

## グリーン島 L'île Verte

世界遺産のラグーンに浮かぶ島・グリーン島へは日帰りツアーが出ています。ヌメアからも参加できますが、移動時間が長くなるため、プーライユからの参加がおすすめです。



© F. Perotto

## ラグーン遊覧飛行 ULM

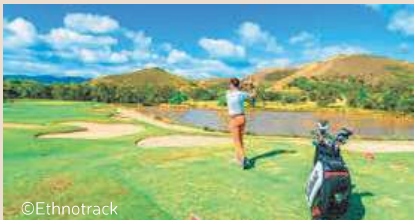
超軽量飛行機 (ULM) や水上飛行機で、世界遺産のラグーンを上空から楽しんでみませんか? ターコイズブルーに輝くラグーンの絶景は、息をのむような美しさです。

超軽量飛行機: ULM Poé

WEB [www.ulm.nc](http://www.ulm.nc)

水上飛行機: Air paradise

WEB [www.airparadise.fr](http://www.airparadise.fr)



©Ethnotrack

## ゴルフ Golf

「シェラトン・ニューカレドニア・デヴァ・スパ&ゴルフリゾート」は、その名にもあるとおり、ゴルフ愛好家にはぴったりのリゾートです。敷地内に併設された本格リンクスは、巨匠ピート・ダイ率いるダイ・デザイン社が設計したものです。国際大会などにも利用されるこの18ホールで、とびきりのゴルフ・パカンスをどうぞ。プロによるレッスンも受けられるので、初心者でも楽しめます。

## 巨大シダの森公園 Le Parc des Grandes Fougères

広大な自然保護区域にある州立公園。とても貴重な植生であるため、一般開放されているエリア以外に、立ち入り禁止の研究エリアも存在しています。高さ十数メートルにも及ぶ木生シダが見られる森が広がり、その様子はまるでジュラシック・パークさながら。稀少な固有種シダも多く、中には3億5000年もの昔に誕生した種のものも。運が良ければニューカレドニアの国鳥・カゲーにも出会えます。1時間程度から5時間程度のもので、体力レベルに合わせたハイキングコースが用意されているので、じっくり歩いて楽しみたいものです。

WEB [grandes-fougères.nc](http://grandes-fougères.nc)



©NCTPS



©MasaakiHojo

## Farino ファリノ

ヌメアから車で約1時間20分程度でありながら、緑深き手つかずのジャングルが広がります。ネイチャー好き、アウトドア好きにはたまらないエリア。

ご存知ですか?

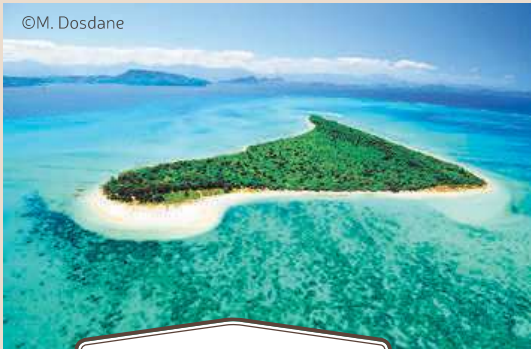
## こんな楽しみ方も! ホーストレッキングや ブッシュランチもおすすめ

「ストックマン」と呼ばれるカウボーイたちが活躍する西海岸は、ニューカレドニアの中でも乗馬のメッカ。美しい海辺や山の中など変化に富んだロケーションを、のんびり馬の背から満喫してみても?

また、爽やかな風が吹き抜ける草原でローカルフードのランチがいただけるブッシュランチで、ピクニックを楽しむのも心癒されるひとときになること間違いありません。



©S. Ducandas



©M. Dosdane

## テニア島 L'îlot Ténia

ブルパリ近くの美しいラグーンに囲まれた小島でシュノーケリングなどのマリナクティビティーが楽しめます。ドルフィン・ウォッチングのスポットとしても人気で、ヌメアからの日帰りツアーもあります。

## Boulouparis ブルパリ

ヌメアから車で約1時間。牧草地在り、ニューカレドニア開拓者たちのスピリットが残るのどかな町です。

### J.L.D 製造所 (エッセンシャルオイル工房) La distillerie J.L.D

殺菌効果が高く、万能薬のように使われている植物・ニアウリの他、タマヌヤコブミカンといったローカルフルーツのオイル抽出工房。併設ショップでオイルや石けんなどの商品も購入できます。

WEB [distillieriedeboulouparis.com](http://distillieriedeboulouparis.com)



©M. Dosdane



©Massaki Hōjo



©Ethnotrack

## ウアノのマングローブ La Mangrove de Ouano

海水と淡水が混ざり合う汽水域に生えるマングローブの森。その中へと分け入っていくトレッキングで、冒険家気分を味わってみませんか？この特殊な環境に生息する稀少な生き物や植物たちにも出会えます。

## La Foa ラ・フォア

農園や牧場の広がるラ・フォアは、野菜や果物の他、コーヒーの産地としても有名な田舎町。ハイキングや乗馬などのアクティビティーでその豊かな自然を体験して。



©Jerome Emeriaud ©sugar-photographie.com

## Koné コネ

国内線空港があり、本島北部への観光拠点になっている町。世界一有名と言っても過言ではない「ヴォーのハート」へはここからどうぞ。

### ヴォーのハート Le Cœur de Voh

ヤン・アルテュス・ベルトランの空撮写真により、世界中から注目を集めることになったのが「ヴォーのハート」です。これはマングローブの森が自然につくり上げた奇跡の形。ヌメアからのヘリコプター遊覧もしくはコネからのULM(超軽量飛行機)遊覧でお楽しみください。

### 西海岸の朝市

農業・畜産が盛んな西海岸エリアでは、豊富で多彩な農産物が集まる朝市がそれぞれの町で開かれています。地元の人々の素朴な暮らしぶりも知ることができる朝市へ、一度、出かけてみませんか？

ラ・フォア 毎週土曜 8:00 ~ 12:00  
ファリノ 第2日曜 8:00 ~ 12:00  
サラメア 第4日曜 8:00 ~ 12:00  
モアンドゥ 第1日曜 8:00 ~ 12:00

### Hôtel コネのホテル

#### ホテル・ハイビスカス Hôtel Hibiscus



©CDCI

コネ空港から車で約5分の立地にある、アジアリゾート風のモダンなブチホテル。ここでは「ヴォーのハート」へのULM遊覧飛行を行っています。遊覧飛行と宿泊とセットになったプランがおすすめです。

WEB [www.hotelhibiscus.nc](http://www.hotelhibiscus.nc)

# ニューカレドニア・イベントカレンダー

マラソンやウインドサーフィンなどスポーツ系の世界大会をはじめ、ニューカレドニアでは年間を通じて、多彩なイベントが開催されています。

※ 2019年の情報を元にしてあります。年によって開催のない場合や日程が変更になる場合がございます。

## 1月

元日：1月1日

## 4月

復活祭とその翌日の月曜：4月中旬  
**バーレスク・インターナショナル・フェスティバル**：4月中～下旬（モン・ドール）  
 本場ニューヨークやシカゴなどのダンサーが繰り広げる魅惑の世界。

**ヌメア国際トライアスロン**：4月下旬（ヌメア）

ヌメアの美しい海沿いを走り、泳ぐトライアスロンレース。

**ダンペア・フェスティバル**：4月下旬（ダンペア）

約3000人分のジャイアント・オムレツを作るお祭り。



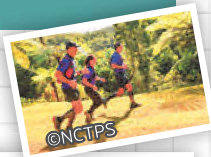
スターが登場することも！

**フレンチ・チーズ・フェスティバル**：6月上旬（ヌメア）・6月下旬（ブーライユ）  
 本場フランスのチーズ約100種が集結する人気イベント。「ル・メリディアン・ヌメア・リゾート&スパ」では6月上旬、「シエラトン・ニューカレドニア・デヴァ・スパ&ゴルフリゾート」では6月下旬が恒例。

## 7月

**トランス・カレドニエンヌ**：7月上旬（ヌメア）  
 伝統あるトレイルランニングの大会。世界各国から強豪が集います。

**フランス革命記念日**：7月14日



## 8月

**クラーク・カップ**：8月上旬（ヌメア）  
 アンリ・ミラール競馬場で開催されるニューカレドニア最大の競馬レース。

**聖母被昇天祭**：8月15日

**ニューカレドニア国際マラソン**：8月下旬（ヌメア）

一流ランナーも出場する国際的舞台。日本人参加者も多数。



## 9月

**フランコフォリー音楽祭**：9月上旬（ヌメア・チバウ文化センター）  
 フランス最大規模の音楽祭がニューカレドニアに！

**ワイン&チーズ・ブッフェ**：9月上旬～中旬（ヌメア）

フランスチーズ約100種を味わえる「シャトーロワイヤル・ビーチリゾート&スパ」でのイベント

**ヌメア・カーニバル**：9月中旬（ヌメア）

華やかな衣裳に身を包ん



だん々がパレードし、街中がにぎわいます。  
**ニューカレドニア・ナショナルデー**：9月24日

**PGA サウス・パシフィック・オープン・チャンピオンシップ**：9月中旬（ヌメア近郊・ティナゴルフコース）

## 10月

**ブラックウッドストック ロックフェス**：10月上旬（モワンドゥ・テレンバ要塞）  
 世界各国からアーティストが集結し、熱いステージが繰り広げられます。

**ツール・ド・カレドニア**：10月中旬（本島全土）

約10日間をかけてグランドテール島を一周する壮大な自転車レース。

## 11月

諸聖人の祝日：11月1日

第一次大戦休戦記念日：11月11日

**PWA エアウェイブス・ヌメア・ドリーム・カップ**（隔年開催）：11月下旬（ヌメア）

アンスパタ湾を舞台に繰り広げられるウインドサーフィンの世界選手権。



## 12月

クリスマス：12月25日



## 5月

メーデー：5月1日

戦勝記念日：5月8日

キリスト昇天祭：5月中旬

**ニューカレドニア・ラリー**：5月中～下旬（ヌメア）

本島南部の変化に富んだ地形を走り抜けるカーレース。

**ニューカレドニア・グレート・ラグーン・レガッタ**：5月中～下旬（ヌメア）

ヌメア南部のラグーンを舞台に開催されるヨットレース。



## 6月

聖霊降臨祭とその翌日の月曜：6月

**ニューカレドニア・ウルトラトレイル**：6月上旬

カテゴリーは国際トレイルランニング協会（ITRA）認定の5ポイントを獲得できる上級者向け130kmコースから、8kmコースまで5種。自分のレベルに合わせて選べる。

**ラ・フォア映画祭**：6月下旬～7月上旬（ラ・フォア）

世界各国の最新映画を上映。実際に映画

イベントについて詳しくはWEBで



# Grand Sud グランスッド (本島南部)



ニッケルや鉄分を多く含んだニューカレドニアの赤土は、数々の固有植物を育ててきました。グランドテール島南部には、そんな独自の生態系を有する豊かな自然が広がっています。

## リビエール・ブルー州立公園

Le Parc Provincial de la Rivière Bleue

ヌメアから車で約1時間半。ニューカレドニアの固有動植物を数多く育む自然保護区です。2万2000haにも及ぶ広大な敷地には、熱帯雨林から乾燥した灌木地まで多彩な植生が広がっており、変化に富んだ景観が特徴となっています。

ここでは、原始の時代から残るユニークな固有植物を見られるだけでなく、ニューカレドニアのシンボルにもなっている固有種・カゲーに高確率で会うことができます。ヌメアから催行されている日本語ガイド付き日帰りツアーに参加して、詳しい解説とともに楽しむのがおすすめです。

WEB [www.province-sud.nc/page-votre-province/parc-provincial-riviere-bleue](http://www.province-sud.nc/page-votre-province/parc-provincial-riviere-bleue)

### リビエール・ブルー州立公園ガイドツアー

ブルーホワイトトランスポート (日本語対応可)

WEB [bluewhitetransport.com](http://bluewhitetransport.com)

Caledonia Tours (日本語対応可)

E-mail [caledoniatours@gmail.com](mailto:caledoniatours@gmail.com) または [bbhy@mls.nc](mailto:bbhy@mls.nc)

WEB [Toutazimut](http://Toutazimut) (英語・仏語対応)

[www.toutazimut.nc](http://www.toutazimut.nc)



©S. Ducandas



©M. Dosdane



©M. Dosdane

## 見どころ満載！ ここは大自然のパワースポット

リビエール・ブルー州立公園内には、数々の見どころが点在しています。樹齢1000年を超えるというグランカオリの木は、園内屈指のパワースポット。また、「沈める森」と呼ばれ、立ち枯れた木が朽ちずに残る湖の神秘的な景色も見逃せません。「沈める森」ではカヤックを楽しむこともでき、特に満月の夜だけに行われるナイトカヤックは、幻想的な雰囲気にあふれるアクティビティです。

## ヤテ湖

Le Lac de Yaté

一部がリビエール・ブルー州立公園内にも広がる人工湖。周辺には、ハイキングやマウンテンバイクのコースがあり、また湖内でカヤックも楽しめます。湖中に立ち枯れた木々が朽ちずに残り、神秘的な景観をつくり出している「沈める森」でのカヤックには、他では体験できない魅力があります。



©Stéphane Ducandas

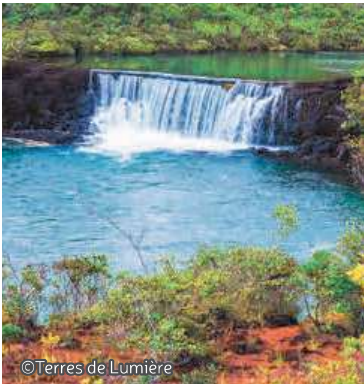


©M. Dosdane

## マドレーヌの滝

Les Chutes de la Madeleine

ヌメアから車で約2時間のところにある「マドレーヌの滝公園」。ここも固有種や希少種植物の宝庫です。約1時間40分のトレイルでは、これらの多彩な植物を眺めながら、爽やかな川沿いを歩くことができます。ルートのおちこちに、植物名を記したプレートが掲示されているのも、うれしい点です。

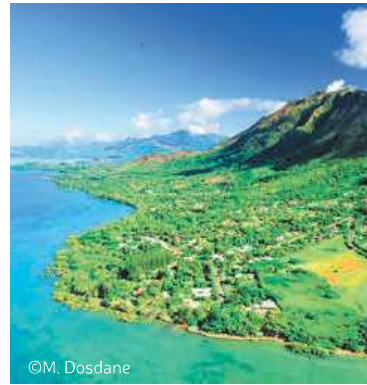


©Terres de Lumière

## モン・ドール

Mont Dore

夕日を浴びて金色に輝くように見えることから、「モン・ドール (=黄金の山)」と呼ばれるように。標高772mで頂上付近はパワースポットとして知られ、週末にはハイキングを楽しむ地元の人々がよく訪れます。ここで有名な湧き水。山のふもとに水の湧き出ている泉があるので、ぜひ空のペットボトルを持参して。



©M. Dosdane

ご存知ですか？

### こんな楽しみ方も！ ホエール・ウォッチング・ツアー



© Terres de Lumière

7月中旬～9月上旬の特別なお楽しみといえば、ホエール・ウォッチング。この時期、本島南端周辺のプロニー湾には、たくさんのザトウクジラが集まります。子連れの母クジラが育児の最中に体を休めようと、ここを訪れるからです。人なつこいクジラたちが大きくジャンプしたり、潮を吹いたり。スペクタクルなクジラの営みを間近にできる、貴重なチャンスです。ちなみにニューカレドニアでは1996年からザトウクジラを保護種と定め、ザトウクジラの生育に影響が出ないよう、許可を受けたツアー会社のみがホエール・ウォッチングを行っています。

## ニューカレドニアは固有種の宝庫

### 固有植物は約3200種

太古の時代、現在のオーストラリアである Gondwana 大陸から分離したニューカレドニアでは、4000種の陸上植物のうち約8割にあたる3200種が固有種。例えば、イル・デ・パンのシンボルにもなっている南洋杉は、世界に19種あるアラウカリア属のうちの13種までがニューカレドニアの固有種になっています。また固有種でなくても、南国らしいトロピカルフラワーがあちこちに咲き乱れる自然いっぱいの島です。



©Toko

ニアウリ



©NCTPS

シジギウム



©Toko

カグー



©P. Morin

キゴシハイワインコ



©Toko

キサントステモン



©JFC Ballade

エリアキシス



©P. Morin

ノトゥー



©P. Laboute

ヌメアカタライ

### ここは生き物たちの楽園

ニューカレドニアでは動物の固有種も多彩。飛べない鳥のカグーをはじめ、世界一賢いカラスと言われるカレドニアカラス、ハトの仲間としては最大級のノトゥーなど22種の固有鳥類や60種以上の固有爬虫類が暮らしています。海洋生物は約1万5000種と言われ、ジュゴン生息数は世界第3位、ウミガメ生息数は世界第2位という、生き物たちの楽園となっています。

# Côte Est 東海岸

同じグランドテール島にあって、西海岸とはまったく異なる趣に満ちた東海岸。手つかずの自然が織りなす変化に富んだ景観は、まさに“秘境”と呼ぶにふさわしいエリアです。まだ見ぬニューカレドニアを探しに、足を延ばしてみませんか？



## タオの滝

La Cascade de Tao

全長 200m、緑生い茂る中に威風堂々とした流れを有するタオの滝へは、約1時間程度のトレッキングで訪れることができます。下流にある滝壺は、水遊び場としても人気のポイント。

©Cyril Gervais

## Hienghène ヤンゲン

“神の宿る地”として古くから崇められ、今もニューカレドニアの人々にとって憧れの観光地として知られるヤンゲン。神秘的な大地のパワーに触れ、心満たされる旅をどうぞ。

## Hôtel ヤンゲンのホテル



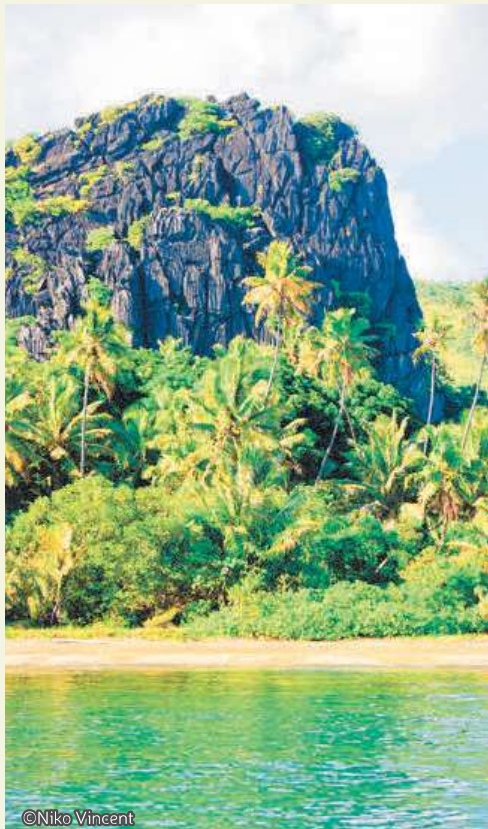
©Niko Vincent

## クルヌエ・ヴィラージュ

Koulnoué Village

ビーチを目の前にした、ヤンゲン唯一のリゾートホテル。バンガロータイプの客室 50 棟と伝統家屋カーズを模したヴィラ 10 棟が点在するガーデンは、南国の緑と花に彩られ、のんびり穏やかな時間の流れを感じさせてくれます。

**WEB** [grands-hotels.nc/hotels/hotel-koulnoue-village](http://grands-hotels.nc/hotels/hotel-koulnoue-village)



©Niko Vincent



©Eric Aubry



©Masaaki Hojo

## 奇岩鑑賞クルーズ

ヤンゲン随一の見どころといえば、石灰岩の隆起によって形成された奇岩群。ニワトリのような“チキン・ロック”、旧 500 フラン札に描かれた岩など数々の巨岩鑑賞には、クルーズツアーがおすすめです。思わず目を奪われる迫力の景観をじっくり堪能できます。



©Masaaki Hojo

## 東海岸エリア・北部州への ツアーについて

東海岸を含め北部州エリアは交通の便があまり良くないため、地元の旅行会社を通じてツアーに参加いただくことをおすすめします。現地旅行会社の情報は P32 をご覧ください。



©Eric Aubry

## Thio ティオ

明治時代以降に入植した日本人移民が暮らしたのは、ニッケル鉱山のあるティオの町でした。現在もそのゆかりの場所が残っています。



©Terres de Lumière

ご存知ですか？

### まだ見ぬニューカレドニア ～大地の魅力あふれる東海岸～

グランドテール島は中央を走る山脈によって西海岸・東海岸に分かれておりそれぞれに異なる自然環境が形づくられて



©Drones.nc

います。東海岸に広がるのは、壮大な大地のパワーを感じられる渓谷や緑豊かなジャングル。ニューカレドニアの最高峰・パニエ山（標高1,628m）があるのも東海岸・ヤンゲンの近くです。またヤンゲンやポワンディミエ周辺のラグーンは、ユネスコ世界遺産にも登録されています。奥深い魅力を秘めた東海岸・北部州を探訪するなら、国内線飛行機や高速バスで東海岸の町まで移動した後、現地催行ツアーやホテル送迎を利用するのがおすすめです。



©Terres de Lumière

### ニッケル博物館 Le Musée de la Mine

ニューカレドニアのニッケル産業発祥の地とも言われるティオ。その歴史を紹介したミュージアムです。ニューカレドニアと日本人との浅からぬ関わりを知ることができる場所でもあります。

**WEB** [www.thio.nc/evenements/visite-de-la-mine](http://www.thio.nc/evenements/visite-de-la-mine)



©Hôtel Tiéti

### Hôtel ポワンディミエのホテル

#### ホテル・ティエティ Hôtel Tiéti

世界遺産の海に面したロケーション絶好の3ツ星のリゾートホテル。客室は伝統家屋カーズを模したバンガローと2階建てビルディングタイプのスタンダードルーム。いずれもシックで落ち着いた雰囲気です。

**WEB** [www.tieti.nc](http://www.tieti.nc)

## Poindimié ポワンディミエ

北部州東海岸では最も大きな町。ここを訪れば、素朴でどこか人々の笑顔にきっと癒されるはず。沖合には、バリアリーフが二重に形成された非常に稀少なスポットもあります。



©Alize Diving/Satoshi Masuda



©Tourisme Province Nord

### ティエティ・ビーチ La plage de Tiéti

まさに手つかずの海というのがふさわしい、静けさにあふれたビーチ。沖合にはダイバー憧れのスポットが多数点在していますが、訪れるのはほとんどがローカルのダイバー。まだまだ知る人ぞ知るダイビングスポットです。

### ティバラマ島 L'îlot Tibarama

南洋杉が天高くそびえる島影が印象的なこの小島には、ポワンディミエの海岸からボートで約10分。ジャングル散策やシュノーケリングが気軽に楽しめるティバラマ島ツアーに参加するのがおすすめです。

# L'Histoire de la Nouvelle-Calédonie

## 知ればますます楽しくなる！ ニューカレドニアの歴史

先史時代～植民地化以前

### 多民族文化のクロスポイント

古代、 Gondwana大陸の一部であったというニューカレドニア。約8,500万年前にオーストラリアから分かれた後、地殻変動の影響を受けつつ、現在の形になったと考えられています。この島最古の人類の痕跡は、紀元前5000年のペトログリフ（岩石に刻まれた文様）に残されていますが、その後、ラピタ人が渡来。さらにメラネシア系民族が来島して、後に来たポリネシア系民族と交じり合い、各地に集落を作りました。



©Stéphane Ducandas

キャプテン・クック到達～植民地時代

### 「新しいスコットランド」へ西洋人が移入

1744年、西洋人として初めて探検家ジェームス・クックがニューカレドニアに到達。グランドテール島の山並みがスコットランド（旧カレドニア）地方に似ていたことから「ニューカレドニア」と名付けられました。そして1853年、英国のオース



©Stéphane Ducandas

トラリア・ニュージーランド領有に対抗したナポレオン三世が、ニューカレドニアをフランス領と宣言。その後、フランス本国からの流刑地となりましたが、1897年に流刑制度は廃止され、以来、行われていません。

海外領土時代～現在

### 特定自治権を有する新ステージへ

1946年、ニューカレドニアは植民地という地位を脱し、フランス海外領土として認められます。それにより、ニューカレドニアの人々は人種に関係なく本国と同等のフランス国籍を持つことになりました。さらに1999年以降は、フランス共和国の一部でありながら、特定の領域に関しては自治権を保持する「特別共同体」という位置づけを獲得しています。

日本とニューカレドニア

### 島国の者同士を結び、 長く深い絆

ニューカレドニアには、世界のニッケル資源の4分の1が埋蔵されているとも言われ、これが島の発展を大いに促しました。1892年以降、ニッケル鉱石を掘り出すための働き手として日本人が九州や沖縄からニューカレドニアへ移り住みます。しかし、1941年の真珠湾攻撃によって彼らの生活は一変。敵国人として刑務所に収容、戦後は日本へ強制送還されることとなりました。所有財産はほぼ没収され、現地で家族をつくっていた人も生き別れになったと言います。現在も、日本人姓を持つ人々が多いのは、その名残なのです。

そんな哀しい歴史を乗り越え、1970年頃からニューカレドニアは「天国にいちばん近い島」として、日本人憧れの海外旅行先となります。今なお、ニューカレドニアを訪れる観光客のうち本国のフランス人に次いで多いのは日本人旅行者。島のあちこちに掲げられている日本語の表示にも、日本とニューカレドニアの深い関係を見ることができるといえるでしょう。

**主な現地旅行会社** ニューカレドニアの旅で強い味方となってくれるのが現地旅行会社。  
経験豊かな日本人スタッフが対応してくれる会社も多く、安心です。

日本人スタッフ・日本語対応

サウス・パシフィック・ツアーズ (SPT)  
South Pacific Tours  
ヒルトン・ヌメア・ラ・プロムナードギャラリー内  
TEL : 25-90-29  
ル・メリディアン・ヌメア・リゾート&スパ内  
TEL : 27-37-93  
[WEB www.spt-newcaledonia.com](http://www.spt-newcaledonia.com)

日本人スタッフ・日本語対応

ランドコミュニケーションズ・ニューカレドニア  
LAND Communications  
カサ・デル・ソル ホテル内 TEL : 24-11-30

日本人スタッフ・日本語対応

ニューカレドニア・オプションツアー・センター  
New Caledonia Optional Tour Center  
TEL : 74-19-60  
[WEB www.newcaledonia-optionaltours.jp](http://www.newcaledonia-optionaltours.jp)

日本人スタッフ・日本語対応

ブルーホワイトトランスポート  
Blue White Transport  
TEL : 76-33-01  
[WEB bluewhitetransport.com](http://bluewhitetransport.com)

英語・フランス語対応/北部州・東海岸エリアツアーOK

ヌメア・ディスカバリー  
Noumea Discovery  
TEL : 28-02-18  
[WEB www.noumeadiscovery.com](http://www.noumeadiscovery.com)

英語・フランス語対応/北部州・東海岸エリアツアーOK

ニューカレドニア・アウトドアーズ  
New Caledonia Outdoors  
TEL : 84-50-28  
[WEB www.newcaloutdoors.com](http://www.newcaloutdoors.com)

英語・フランス語対応/スポーツアクティビティ

ノーチラス・ツアーズ  
NAUTILUS TOURS  
TEL : 78-59-48  
[WEB www.nautilus-tours.com](http://www.nautilus-tours.com)



## 現地交通情報



日本からの玄関口となるのは、トントウータ国際空港。  
ここでは空港～ヌメア市内への移動に加え、  
ニューカレドニアの旅に役立つ交通アクセスをご紹介します。

※料金などの情報は2019年9月現在のものです。

### トントウータ国際空港からヌメアまで

鉄道や公共バスの運行がなく、タクシーもほとんど待機していないため、空港～ホテル間の移動は下記いずれかの利用がおすすめです。  
※トントウータ国際空港は24時間空港ではありません。乗り継ぎ利用の場合も夜は近隣ホテルにご宿泊いただく必要がございます。

#### ① 現地旅行会社の送迎を利用

パッケージツアーであれば、現地旅行会社の送迎がセットになっていますが、個人旅行の場合は事前に送迎の予約をどうぞ。日本語対応してくれる会社が多く、安心です。詳しくは左ページ下の現地旅行会社までお問い合わせ下さい。

#### ② 混乗バス送迎「アーカンシエル・サービス」を利用

空港からヌメアの各ホテルまでの送迎サービスを行っているのが、「アーカンシエル」。空席があると予約なしでも利用可能ですが、念のため、事前に予約を入れておくこと安心。予約は下記HPからどうぞ。空港出口を出て右方面へ行くと突きあたりにカウンターがあります。

アーカンシエル [WEB www.lanavette.nc](http://www.lanavette.nc)

### ヌメア市内の交通

#### 路線バス

ヌメア市内の移動に便利なのがバス。路線は複数ありますが、観光客の多くが利用



するアンスパタ地区のホテルとヌメアの中心部(ココティエ広場周辺)を結ぶのは、10番・11番。バスチケットは乗車時に運転手から購入すると1枚210CFP、チケット販売所や各所の自動販売機で購入すると1枚190CFP。チケット販売所では、10枚つづりでお得な回数券(1850CFP)も取り扱っています。

カルイア・バス [WEB www.karuiabus.nc](http://www.karuiabus.nc)

#### タクシー

ココティエ広場南側にはタクシー乗り場がありますが、流しのタクシーは走っていないので、その他の場所から利用したい場合はホテルやレストランで手配してもらいましょう。▶

到着までに時間がかかるので、呼ぶ際には時間に余裕を持って。初乗り料金は340CFPですが、最低料金は600CFPから。呼び出しの場合は呼び出し料金として+170CFPかかります。



#### <タクシー料金の設定>

##### ヌメア市内

平日 6:00～18:00 123CFP / 1kmあたり、  
18:00～6:00 163CFP / 1kmあたり

土日 163CFP / 1kmあたり

祝日 188CFP / 1kmあたり

##### ヌメア市外

平日・土日・祝日とも 188CFP / 1kmあたり

※トランクに入れる荷物1個あたり44CFPが加算

### レンタカー

公共交通の発達していないニューカレドニアで、個人旅行の強い味方となるのがレンタカー。事前に必ず予約をしておきましょう。利用時には、国際運転免許証とパスポート、運転者名義のクレジットカードが必要で、多くの場合25歳以上という年齢制限が設けられています。また、離島などでは数十万CFPの保証金が必要になる場合もあるので、事前にご確認を。

#### <ヌメアの主なレンタカー会社>

ハーツ [WEB www.hertz.co.nz/p/car-rentals/new-caledonia](http://www.hertz.co.nz/p/car-rentals/new-caledonia)

エイビス [WEB www.avis.com/en/locations/nc/noumea](http://www.avis.com/en/locations/nc/noumea)

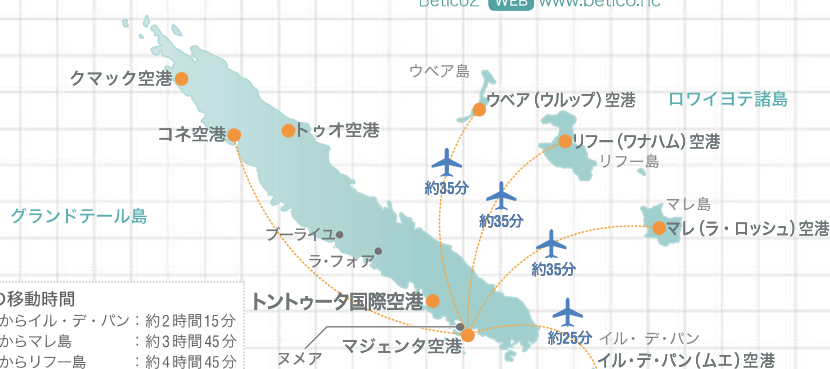
ヨーロッパカー [WEB www.europcar.nc](http://www.europcar.nc)

※離島でのレンタカー情報は各ページをご参照ください。

### 飛行機(国内移動)

ヌメアからグランドテール島北部や各離島までの

ベレップ空港



#### 船での移動時間

ヌメアからイル・デ・バン : 約2時間15分

ヌメアからマレ島 : 約3時間45分

ヌメアからリフー島 : 約4時間45分

移動は、国内線専用航空会社エア・カレドニーの飛行機利用が便利です。座席数が限られているので、予約はなるべくお早めに。発着は、アンスパタ地区のホテルから車で約15～20分のマジェンタ空港。空港へはタクシーか、アーカンシエルなどの空港送迎サービスを利用しましょう。受託手荷物は航空券の種類にもよりますが、基本的に大人12kg・子供(2～11歳)8kg・幼児(0～23ヶ月)5kgまで。追加料金で大人ひとり20kgまでに変更可能です。機内持ち込みは5kgまで。搭乗にはパスポートが必要になります。搭乗時は70分前には空港に着いている必要があります。30分を切ると受付不可になるため、早めの行動を心がけてください。

国内線飛行機はフライト時刻の変更が生じることがあるので、個人で予約手配された場合は、前日や当日の朝、必ずリコンファームをしてフライト時間の確認をしておくことを強くお勧めします。ご自身で積極的に情報を得るように心がけてください。言葉が心配な場合は、ホテルのフロントを通じて確認してもらうのがいいでしょう。また、日本帰国の最終日に国内線飛行機を使ってヌメアへ戻るスケジュールは、国際線飛行機に乗り遅れる可能性もありますので、お避けください。

エア・カレドニー [WEB www.air-caledonie.nc](http://www.air-caledonie.nc)

※日本～ニューカレドニアをつなぐ国際線航空会社エアカランとは別会社です。

### フェリー

大型フェリー「ベティチョ2号」がヌメア～イル・デ・バン、ヌメア～ロワイヨテ諸島(リフー島・マレ島)を結んでいます。運航スケジュールなどの詳細は下記WEBサイトをご参照ください。海の状況等に運航が左右されるので、長期滞在者向けです。

Betico2 [WEB www.betico.nc](http://www.betico.nc)



# Fruits de mer

シーフード

## 新鮮で多彩なシーフード

日本にも負けない多彩な魚介類が揃うニューカレドニア。中でもぶりっとした食感と甘みが特徴の「天使の海老」は、フランス本国で世界最高品質の食材に与えられる「QUALICERT」の認定を受けたほどのおいしさです。また、日本では貴重なマングローブガニ、大きなロブスターなど、絶品の海の幸が存分に味わえます。



# Vin et Fromage

ワイン&チーズ

## フランスの食に欠かせない ワインとチーズ

ニューカレドニアでも、本場フランスの味を堪能できる場所や機会がたくさんあります。「ル・メリディアン・ヌメア・リゾート&スパ」などのホテルでは、毎年、100種以上のチーズを集めた「チーズフェスティバル」を開催。フランスワインを各種取り揃えたレストランやショップもたくさんあります。

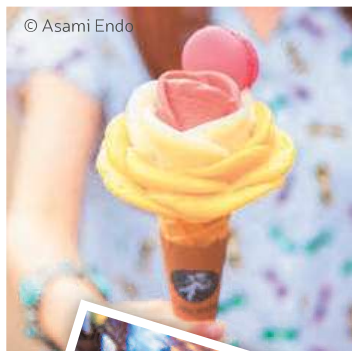
# Gibier

ジビエ

## 鹿肉や鴨肉など肉類も豊富

ニューカレドニアでは魚介類だけでなく、肉料理もおいしいと評判。特に野生化したものを狩猟で捕らえる鹿肉は、新鮮そのもので臭みがありません。また、フランス本国でよく食べられている鴨料理もニューカレドニアの定番メニューです。





# スイーツ *Douceurs*

## 本場仕込みの 絶品スイーツ

チョコレートやジェラートなど、ニューカレドニアに来たらおいしいスイーツも見逃せません。ジェラートなら、フランス発祥の「アモリーノ」やニューカレドニア産食材を用いている「ジオ」。チョコレートは「ショコラ・モラン」や「トントン・ジュール」といった専門店が人気です。



## 新鮮食材に フレンチの技が光る美味

新鮮シーフードに肉類、野菜などの豊富な食材と  
グルメ大国・フランス領ならではの  
技が織りなす美食の数々をどうぞ！



# *Pain et Galette* パン & ガレット

## おいしいパンやガレット

おいしいパン屋さんやガレットの店があるのもフランス領ならではの。本場ブルターニュ同様、ソバ粉を使ったガレットは、食事系からデザート系まで種類豊富に揃った専門店が人気です。パンは朝市やスーパーでもおいしいバゲットやクロワッサンが売られていますし、町のブーランジュリーで買うのも楽しいもの。



## カナックの伝統料理・プーニャ

ニューカレドニアに来たら一度は食べてみたいのが、カナックたちがお祝いの際などに作る伝統食「プーニャ」。これはヤマイモやタロイモに魚や鶏肉などの具材を加えてココナッツミルクで味付けし、バナナの葉で包んでから土の中に入れて蒸し焼きにしたもの。素朴ながらも食材のおいしさがじっくり染みわたる味わいを、ぜひお試しあれ！



## オーガニックコスメ&スキンケア *Cosmétique*

ニューカレドニアに育つ植物や白砂を使ったオーガニックコスメやスキンケア商品は、女性のマストバイアイテム。メディカル・プランツとして知られるニアウリを使ったリップスティックやボディーローション、ココナッツオイルのハンドメイドソープなど、数々のアイテムが揃っています。

### おすすめブランド

パシフィコ・ナチュラル  
Pacífico Nature

ニアウリやリファー島特産のパニラなどを使ったナチュラル・コスメで定番人気。

ボタニック  
Botanik

原料すべてにニューカレドニア産のものを用いた注目のオーガニック・コスメブランド。



©South Pacific Tours

「ラ・プロムナード・ショッピングセンター」にある「The Savonnette」は石鹸&バスグッズのお店

### フレンチ・コスメもおすすめ！

ニューカレドニアには本場フレンチ・コスメのショップも充実しています。日本で人気の高い「ロクシタン」の他、フランス本国で若い女性たちに大人気のオーガニック系コスメブランド「イヴ・ロシェ」も出店。「イヴ・ロシェ」は、まだ日本にはショップがないので、ぜひニューカレドニアで訪れてみて。



©CDCI

## 絶対に見逃せない！ ニューカレドニアのお土産

絶品スイーツから、アクセサリ、コスメまで。  
旅のお楽しみには欠かせない、  
ニューカレドニアならではのお土産を集めました。

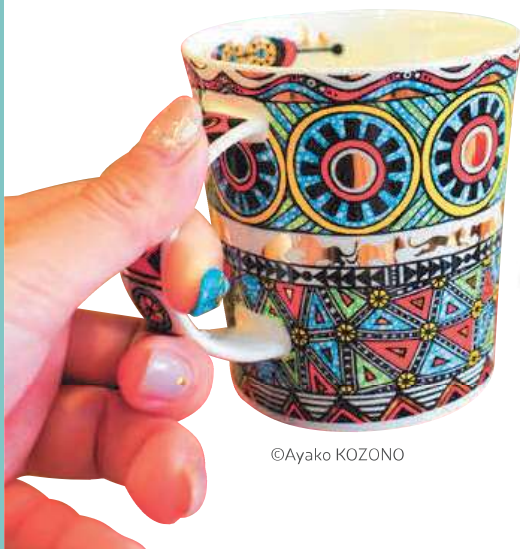


©CDCI

©NCTPS

## Articles de ファッション&雑貨アイテム *Mode*

フランスならではの洗練されたセンスが光る雑貨やアクセサリ、ファッショングッズもお土産にぴったり。ファッション系では、カラフルなパレオや、ニューカレドニアの伝統衣装・ミッションローブなどがあり、また、ブラックパールのアクセサリは高品質なものがリーズナブルに買えるので特におすすめです。



©Ayako KOZONO



©Ayako KOZONO



©NCTPS



©Asami Endo

## ニューカレドニアのメディカル・プランツ ニアウリ&タマヌとは？

豊かな自然に恵まれたニューカレドニアで、古来、薬効のある植物として広く使われているのがニアウリ。殺菌・消毒効果が非常に高く、この木が繁殖する地域は空気が浄化されるため感染症が発生しにくいという話があるほど。すっきりと爽快感のある香りはリフレッシュにもぴったりです。また、ニューカレドニアをはじめとした南太平洋諸島に自生するタマヌも、近年、その抗酸化効果に注目が集まっています。炎症を抑え、肌の修復機能を高めるので、日焼けの後に使うのもおすすめです。



©poco

# Spécialités gastonomiques

グルメアイテム

ニューカレドニアには豊かな自然からの恵みあふれる特産物がたくさんあります。いずれもクオリティーの高さに定評があり、現地ではなかなか入手できないものばかりです。

## 地ビール

ニューカレドニアの地ビールといえば「ナンバーワン」と「マントビール」。毎週水曜・金曜・土曜・日曜の正午以降は、スーパーやショップでのアルコール購入が不可なのでご注意ください。

## リフー島特産の バニラ

花の受粉をすべて手で行うなど、丹念に作られるバニラビーンズは、芳醇な香りでクオリティーの高さは折り紙つき。

©TOKO

## 生はちみつ

昔ながらの製法が守られている生はちみつ。固有植物の豊富なこの島ならではのめずらしい種類があり、採れる場所によって味わいもさまざま。



© Mika Hashimoto



©TOKO

## チョコレート

チョコレート専門店では、ショコラだけでなく、マカロンやケーキなど見た目にも美しいスイーツがたくさん。



©Toko



©CDCI

### おすすめショップ

ショコラ・モラン  
Chocolats Morand

フランスで修業を重ねたショコラティエ、モラン氏が作るショコラやマカロンは絶品。

トントン・ジュール  
Tonton Jules

1983年創業の地元でも評判のショコラトリ。店舗ではクスマティエの取扱いも。

### おすすめブランド

ビスコショック  
Biscochoc

定番人気のチョコレート・ブランド。板チョコからチョコレート・バーまで商品は多彩。購入はスーパーマーケットで。

## コーヒー豆

「幻のコーヒー」と呼ばれる品種、ブルボン・ボワンチュもニューカレドニアの特産品です。



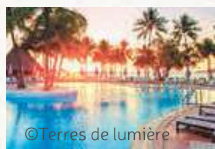
©poco



### ル・メリディアン・ヌメア・リゾート&スパ Le Méridien Nouméa Resort & Spa

アンスパタ湾に面した5つ星リゾート。フランスのホテルブランドならではのモダンな感性とローカルの伝統文化が絶妙にミックスした、コンテンポラリーなインテリアが魅力的。オーシャンビューの客室からは、美しい海の眺めとサンセットが楽しめます。レストランやバー、ラグジュアリースパなどの施設も充実。併設のカジノもあります。

WEB [www.limeridiennoumea.com](http://www.limeridiennoumea.com)



©Terres de lumière



### シャトーロワイヤル・ビーチリゾート&スパ Château Royal Beach Resort & Spa

スタイリッシュで洗練された雰囲気満ちた4つ星ホテルです。客室は全室がキッチン付きのコンドミニウムタイプなので、長期滞在にも便利。オン・ザ・ビーチという絶好のロケーションにあり、メインレストランやプールからもアンスパタ湾の絶景を満喫できます。エクササイズにぴったりのアクアトニックプールやスパ、レストランなどの施設も人気です。

WEB [www.complexechateauroyal.nc](http://www.complexechateauroyal.nc)



©Château Royal



## 極上の癒やしをくれる



### ヒルトン・ヌメア・ラ・プロムナード・レジデンス Hilton Nouméa la Promenade Residences

アンスパタ地区の中心に位置し、ショッピングセンターも併設されたレジデンスホテルです。全室オーシャンビューの客室には1ベッドルームから3ベッドルームまであり、いずれもキッチンやランドリー付き。調理器具も揃っているので、朝市で買った食材を料理してテラスでのディナーやブレイクファストを楽しむのもおすすめです。

WEB [hiltonhotels.jp/hotel/new-caledonia/hilton-noumea-la-promenade-residences](http://hiltonhotels.jp/hotel/new-caledonia/hilton-noumea-la-promenade-residences)



©GLP Hotels



©Hitomi Mutou

### ラマダ・ホテル&スイーツ・ヌメア Ramada Hôtel & Suites Nouméa

近代的なタワーがそびえるスタイリッシュなホテル。アンスパタ地区の中心にあり、観光のロケーションにぴったりです。客室はモダンなインテリアで統一され、広々として快適。全室キッチン付きのため、暮らすように滞在するにも便利。また、最上階の360度回転する展望レストランや、有名スパブランド「スパ・ハーン」のサロンも注目です。

WEB [www.ramadanoumea.com](http://www.ramadanoumea.com)



©O. Strewé



©Hôtel le Lagon

## ル・ラゴン Le Lagon

ニューカレドニアのラグーンをイメージした水槽やゴーギャンの絵のレプリカなど、こだわりに満ちたしつらえが印象的なホテルです。無料で楽しめるマリナクティビティーや地元でも評判のスパ、笑顔で迎えてくれるスタッフのサービスなども人気の秘密。

WEB [www.lagoon.nc](http://www.lagoon.nc)



©Hôtel le Lagon



©GLP Hotels

## ヌバタ Nouvata

大人用と子供用の2つのプールがある広々としたガーデンを中心に3棟の建物からなるホテル。道路をはさんですぐ目の前がアンスパタ・ビーチという便利なロケーションや、客室タイプの多彩さが魅力です。また、金曜日の夜にプールサイドで行われるポリネシアダンスショーは地元でも人気。

WEB [www.nouvata.nc](http://www.nouvata.nc)



©GLP Hotels

## ヌメアのホテル



©CDCI

## ホテル・ボーリヴァージュ Hôtel Beurivage

道路をはさんで目の前がシトロンのビーチで、マリナクティビティーにも観光にもってこいのロケーション。2014年にリニューアルを終えた客室はすっきりと清潔感にあふれ快適。長期滞在を楽しむダイバーなどにも人気の高いホテルです。

WEB [grands-hotels.nc/hotels/hotel-beurivage](http://grands-hotels.nc/hotels/hotel-beurivage)



©CDCI



©Terres de lumière

## カサ・デル・ソル Casa del Sole

「シトロンのショッピングセンター」のすぐ裏にあり、観光やショッピングに便利。広々とした客室は、キッチンや洗濯機などの揃ったコンドミニウムタイプで長期滞在にもぴったりです。全室のテラスから美しいオーシャンビューが楽しめます。

WEB [www.casadelsole.nc/ja](http://www.casadelsole.nc/ja)





## 日本からのアクセス

### 直行便で 8 時間半の快適旅！

成田または関空～ニューカレドニアのヌメアまでは、エアカランの直行便が運航し、8 時間半のフライトとなる。受託手荷物はエコノミークラスの場合で 1 個 23kg まで無料。そこに加えてダイビング器材などスポーツ用品も 1 個 23kg までが無料に。スポーツ用品の追加は事前申請が必要なので、ツアーの申し込み先旅行会社またはエアカランのコールセンターへ。

成田空港発着：通年週 5 便・最大時は毎日運航

月	火	水	木	金	土	日
●	○	○	●	○	○	○

※月・木は夏休みや冬休み期間・年末年始などの繁忙期に運航

関西国際空港発着：週 2 便

月	火	水	木	金	土	日
○			○			

※運航スケジュールの詳細はエアカラン WEB サイトにてご確認ください。



エアカラン [www.aircalin.com](http://www.aircalin.com)

## トラベル・インフォメーション

面積	1 万 8,576km <sup>2</sup> で日本の四国とほぼ同じ。本島のグランドテール島は全長 400km、幅 50km。周辺に多くの島々が点在します。
人口	約 27 万人。
言語	公用語はフランス語。ヌメアのホテルやレストランでは日本語メニューを用意していたり、日本人スタッフが常勤しているところも多く、英語も通じます。一方、離島や北部エリアでは英語が通じない場所も少なくありません。
時差	日本より 2 時間早い（日本が午前 7 時の場合、ニューカレドニアは午前 9 時）。
宗教	住民の 9 割がキリスト教。
通貨	フレンチ・パシフィック・フラン（CFP または XPF と表記）。1CFP = 1.003 円（2019 年 8 月現在）。
両替	成田国際空港・関西国際空港にて両替可能。現地では空港・市内の銀行・一部のホテルで日本円から両替できます。トントウタ国際空港では、手荷物受取場の出口横に両替所があり、レート自体は日本より安いですが、手数料がかかるため、少額であれば日本国内での両替がおすすめです。
チップ	習慣がないので不要。
ビジネスアワー	一般的には 8:00～11:30、13:30～17:00。日曜はほとんどの店が休み。
気候	南半球に位置しており日本とは季節が逆ですが、最も涼しい 8 月で平均気温は約 20℃。年間平均気温 24℃前後と年間を通じて過ごしやすい気候。最も気候が安定するベストシーズンは 10 月～12 月上旬。
服装	基本的にはカジュアルで OK ですが、ホテルやレストランでは T シャツ＋短パンではなく、ワンピースやスカート、ロングパンツなどの服装を心がけてください。
電話	ニューカレドニアから日本へかける場合は、00（国際電話の番号。ただし、ホテルでは異なる場合も）＋81（日本の国番号）＋（日本国内の番号。最初の 0 をとる）。ホテルからの国際電話は手数料が加算されるので割高になります。
電圧	電圧 220V、周波数 50Hz。デジタルカメラやスマートフォンの充電器はほとんどのものが対応していますが、他の電気機器は変圧器が必要。プラグは E タイプが主流。
飲料水	ヌメア市内の水道水は飲料可ですが、心配な方はミネラルウォーターを。離島ではミネラルウォーターを飲みましょう。
Wi-Fi	携帯電話キャリア会社の海外ポケット通信定額サービスの非対象国なので注意が必要です。主なホテルやヌメアのレストランなどでは WiFi サービスを利用できます（パスワードはホテルやレストランにて確認）。また、ココティエ広場周辺は無料 WiFi スポットになっています。現地で借りられるモバイルルーター「NC Pocket Wifi」も便利。ウェブ予約をすればトントウタ国際空港のカウンターで貸し出し可能です。また観光客向けの SIM カードが販売されており、こちらも空港内の郵便局（OPT）にて購入できます。
ビザ&パスポート	日本国籍で滞在が 90 日未満の場合は不要。それ以上の滞在になる場合は、在日フランス大使館でビザ申請を。パスポートの有効残存期間は、滞在日数に加えて 3 カ月以上必要。
緊急時の連絡先	警察署 17 番／救急車 15 番／消防署 18 番